

科目名	卒業研究C					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年 OT 4年	学期	前期・後期 前期	教員実務経験	有	使用教室	201教室	
授業概要	卒業研究A・Bで習得した、研究に必要な基礎知識を用い、卒業論文を作成し発表する。									
一般目標	卒業論文作成・発表のために必要な知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法研究法第2版(医学書院)									

到達目標

知識(認知領域) 研究論文作成にあたり必要な基礎知識を説明できる。

技術(精神運動領域) 卒業論文を作成し発表することができる。

態度(情意領域) グループワークに積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	卒業論文作成①	論文を作成できる。
2	卒業論文作成②	論文を作成できる。
3	卒業論文作成③	論文を作成できる。
4	卒業論文作成④	論文を作成できる。
5	卒業論文作成⑤	論文を作成できる。
6	卒業論文作成⑥	論文を作成できる。
7	卒業論文作成⑦	論文を作成できる。
8	卒業論文作成⑧	論文を作成できる。
9	卒業論文作成⑨	論文を作成できる。
10	卒業論文作成⑩	論文を作成できる。
11	卒業論文発表会①	研究成果を発表できる。
12	卒業論文発表会②	研究成果を発表できる。
13	卒業論文発表会③	研究成果を発表できる。
14	卒業論文発表会④	研究成果を発表できる。
15	まとめ	授業を振り返り、ノート等にまとめることができる。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			60	
授業態度				評価なし	
発表・作品	○			40	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	上原 奈緒子、石丸 拓也、他		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上である(上原)。	

科目名	総合臨床実習技術論演習B				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年 OT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	201教室
授業概要	総合臨床実習に参加するうえで必要な知識と技術を講義・演習を通して学ぶ。								
一般目標	・総合臨床実習の概要を説明できる。・医療従事者、作業療法士としての基本的な態度を修得できる。・医療従事者、作業療法士としての倫理観を修得できる。								
テキスト 参考書等	総合臨床実習ガイドブック / 講義の進行に応じて適宜配布する。								

到達目標

知識(認知領域)
・講義で取り上げた内容について説明できる。

技術(精神運動領域)
・医療従事者、作業療法士らしい立ち居振る舞いを修得する。

態度(情意領域)
・医療従事者、作業療法士らしい身だしなみや立ち居振る舞いで参加できる。・授業に意欲的に参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 総合臨床実習について	講義の概要を説明できる。 総合臨床実習の概要を説明できる。
2	リスク管理	医療現場におけるリスク管理について知識を得る。
3	救急救命	医療現場における救急救命について知識を得る。
4	救急救命②	医療現場における救急救命について知識を得る。
5	病棟におけるリスク管理	病棟におけるリスク管理について知識を得る。
6	喀痰吸引講習	喀痰吸引に関する知識を得る。また、模擬練習で実践できる。
7	喀痰吸引講習	喀痰吸引に関する知識を得る。また、模擬練習で実践できる。
8	ファーストレスポonder講習	ファーストレスポonderに関する知識を得る。また、模擬練習で実践できる。
9	ファーストレスポonder講習	ファーストレスポonderに関する知識を得る。また、模擬練習で実践できる。
10	レジリエンス・ストレスコーピング	仕事や人間関係など様々な場面でストレスを感じたとき、上手にストレスに対処する方法について知識を得る。
11	実習施設情報収集 実習関係書類作成	各実習施設の概要を調査する。その調査結果をふまえて、実習関係書類を完成させる。
12	総合臨床実習 実習報告会①	総合臨床実習での経験をレジメにまとめて発表する。
13	総合臨床実習 実習報告会②	総合臨床実習での経験をレジメにまとめて発表する。
14	総合臨床実習 実習報告会③	総合臨床実習での経験をレジメにまとめて発表する。
15	総合臨床実習 実習報告会④	総合臨床実習での経験をレジメにまとめて発表する。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	濱本尊博、石丸拓也、他		実務経験紹介	{作業療法士として長年の臨床経験を有する。医療機関で実習生の指導経験あり、日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了(濱本、石丸)}	

科目名	総合臨床技術論			単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 4年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室
								201教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。							
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・合格可能性検定試験(学内模試)に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・業者模試を定期的の実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。 							
テキスト 参考書等	クエスチョン・バンク共通問題(メディックメディア) / クエスチョン・バンク専門問題(メディックメディア) 適宜資料配布							

到達目標	
知識(認知領域)	・国家試験合格に必要な知識を習得する。
技術(精神運動領域)	・なし
態度(情意領域)	・国試対策講義に欠席なく参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	国家試験対策オリエンテーション	国家試験に関する概要(試験範囲、合格基準、問題傾向)を理解する。また、今後の国家試験対策の流れを理解する事ができる。
2	合格可能性検定試験に関わる講義・指導	合格可能性検定試験及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
3	合格可能性検定試験に関わる講義・指導	合格可能性検定試験及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
4	合格可能性検定試験に関わる講義・指導	合格可能性検定試験及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
5	業者模試に関わる講義・指導	業者模試及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
6	業者模試に関わる講義・指導	業者模試及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
7	業者模試に関わる講義・指導	業者模試及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
8	業者模試に関わる講義・指導	業者模試及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
9	合格可能性検定試験に関わる講義・指導	合格可能性検定試験及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
10	合格可能性検定試験に関わる講義・指導	合格可能性検定試験及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
11	合格可能性検定試験に関わる講義・指導	合格可能性検定試験及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
12	業者模試に関わる講義・指導	業者模試及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
13	業者模試に関わる講義・指導	業者模試及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
14	業者模試に関わる講義・指導	業者模試及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
15	業者模試に関わる講義・指導	業者模試及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、医療機関、教育機関での経験を20年以上有し、国試指導の経験もある。	

科目名	臨床実習C				単位数	16	時間数	720	
授業形態	実習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	各実習施設
授業概要	医療・福祉関連の実習施設で、基本的な作業療法過程を経験する。								
一般目標	各疾患における評価、治療目標の設定、治療計画の立案、さらには治療実施を通じて、作業療法の基本的知識・技能の習得をはかることができる。また、職業人・専門職としての基本的な態度の習得をはかることができる。								
テキスト 参考書等	臨床実習Cガイドブック 適宜、資料を配布する。								

到達目標

知識(認知領域)
・対象者の疾患と治療の概要を説明できる。・対象者について、一般的な治療までの過程が説明できる。

技術(精神運動領域)
・対象者について、評価、治療目標の設定、治療計画の立案、さらには治療実施ができる。

態度(情意領域)
・実習に意欲的に参加できる。・課題等を期日までに提出できる。

回数	授業内容	授業目標
	臨床実習C I期、II期	<p>I期:2021年5月10日(月)～7月2日(金) II期:2021年7月19日(月)～9月15日(水)</p> <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定の結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 <p><目標設定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 <p><治療計画の立案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。 <p><治療の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・立案した治療計画を実施する。 ・実施内容を記録する。 <p><再評価、目標再設定、治療計画の変更></p> <ul style="list-style-type: none"> ・再評価により作業療法の効果判定を行う。 <p><最終評価、今後の方向性、考察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の変化や作業療法の効果を確認する。 ・今後の作業療法の方向性を検討する。 <p><管理運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の概要を理解する。 ・作業療法の過程を理解する。 ・管理業務の概要を理解する。
	臨床実習C I期 実習報告会	実習後、1週間後に実施する(予定)
	臨床実習C II期 実習報告会	実習後、1週間後に実施する(予定)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト	○			10	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			70	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習		○		20	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	濱本 尊博、渡辺 慎介、他		実務経験紹介	作業療法士として11年以上の経験を有している。また、医療、教育機関で実習生の指導経験あり。 日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了(濱本、渡辺)	